

音楽部会

I. 研究の概要

1. 研究主題 子どもが主体的に表現できる授業のあり方

～共通事項を意識した指導法の工夫～



2. 研究主題設定の理由

これまで「共通事項」をふまえた授業について研究をすすめ、深まりがみられてきた。

今年度からの研究では、児童生徒が「主体的に表現する」ことに着目しようと考えた。豊かな表現力を身につけることによって主体的に表現することが可能になり、自分の思いや意図をもって活動できる。また、豊かな表現力を身につけさせるためには、共通事項（リズム・音の重なり・強弱など）を計画的に授業に盛り込んでいくことが大切である。

音楽の学びを明確にし、児童生徒が自分の考えや感じたことを自由に表現できるようになると「表現することの楽しさ」も味わうことができると考え、主題を設定した。

【今年度の重点課題】

共通事項「リズム、音の重なり、強弱」を踏まえ、歌唱・器楽・創作の領域をどう指導していくか。

3. 研究仮説

- 「共通事項」をふまえた授業研究をすることで豊かな表現力を身につけ、主体的に表現することができるであろう。
- 「共通事項」を計画的に授業に盛り込むことにより、主体的に表現することができるであろう。

4. 研究内容

研究内容1 〈小学校〉

「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」の指導法の工夫についての研究を行う。

研究内容2 〈中学校〉

「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」の指導法の工夫についての研究を行う。

研究方法 理論研修会・学習会・授業研究・実技研修会

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

小学校

1. 実践研究の経過

(1) 中心グループによる研究経過

- | | | |
|------------|---------------|-------|
| ① 7月11日(月) | 二次集会研究授業指導案検討 | 北栄小学校 |
| ② 9月13日(火) | 二次集会研究授業プレ研 | 高台小学校 |
| ③ 10月6日(木) | 二次集会研究授業指導案検討 | 北栄小学校 |

(2) 中心グループでの研究成果

1年生の授業ということで、日常の実践からどのようにリズム指導を取り組んでいくか考え、授業づくりを行った。学年音楽が日常実践だったことから始まり、一人一人がリズムを作られるような手立てを考え、発表の工夫をすることによって全員が発表でき、みんなが「できた」と思える授業の提案だった。また、指導者の発問などもシンプルで大変参考になった。

中学校

1. 実践研究の経過

(1) 中心グループによる研究経過

- | | | |
|------------|---------------|--------|
| ① 7月11日(月) | 二次集会研究授業指導案検討 | 研修センター |
| ② 9月1日(木) | 二次集会研究授業指導案検討 | 千歳中学校 |
| ③ 9月13日(火) | 二次集会研究授業指導案検討 | 勇舞中学校 |
| ④ 10月6日(木) | 二次集会研究授業指導案検討 | 北栄小学校 |

(2) 中心グループでの研究成果

本時は、「自分にあったKEYを探そう」というテーマで、「浜辺の歌」を教材に授業をおこなった。いくつかのKEYの伴奏が録音されているキーボードのところで、歌いながら自分に合うKEYを探すという活動で授業が進められた。教科書で扱われている日本歌曲を積極的に歌わすことが難しい中、子供たちが生き生きと活動する場面がみられた。主体的に取り組ませる中で、自分の声の響きを表現する方法などを交流することができた。

2. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容

小学校

①授業公開の様子

1年生 題材名 「音でよびかけっこ」

授業者 夏堀理恵 教諭(MS) 高橋瑞穂 教諭(ST)
(千歳市立北栄小学校)

共同研究者 鈴木美奈子 教諭(千歳市立北栄小学校) 伊藤美香 教諭(千歳市立北栄小学校)
遠藤あゆみ 教諭(千歳市立千歳小学校)

本時の目標

- (1) 音の出し方やリズムに気をつけて表現する。
- (2) 音楽の仕組みを生かし、簡単なリズムをつくる。

本時の様子

学 習 内 容	教諭の関わりと評価規準 具体的評価方法 ☆共通事項を知覚・感受するための手立て △目標に到達していない児童への支援 ◎具体的評価規準 【評価の方法】
<p>1. 前時をふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習曲を歌う。 ・行進曲をふりかえる。 <p>②. 課題 「リズムをつくってたのしもう。」 4分音符や8分音符, 4分休符をつかって自分のリズムをつくる。</p> <p>3. リズムパターンの違う数名が, 楽器を使って発表する。</p> <p>4. つくったリズムをつかって, 呼びかけにこたえる。</p> <p>5. 学習をまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・楽器の音を確認する。 <p>☆「たん」「たた」「うん」のリズムを確認する。</p> <p>リズム</p> <p>【手拍子・ワークシート】</p> <p>☆楽器の音色にも注目させる。</p> <p>音色</p> <p>【ワークシート】</p> <p>△ワークシートに記入できない子がいる場合は, 教師が簡単なリズムを提示して, そこから少しずつ子どもの考えを引き出すようにする。</p> <p>◎音の出し方やリズムに気をつけて, 音楽のしくみを生かし, 簡単なリズムをつくっている。</p> <p>【ワークシート, 演奏している様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを掲示する。 <p>問いとこたえ</p> <p>【演奏している様子】</p>

②授業分科会での協議内容

- ・低学年(1年生)でのリズム指導での指導の工夫(ワークシートや発表の手だてなど)がわかった。
- ・日常の指導の積み重ねがよくわかった。

③成果と課題


- ・1年生のリズム学習でどのような指導をすれば, よいのか考える大変よい授業をみせてもらった。
- ・リレーでリズム発表をするのは, 全員が発表できる有効な手段だった。
- ・「問いとこたえ」の発表ができていた。
- ・全員発表や楽器に触る機会の保障を考えると, 合音の扱いではない方がよい。

中学校

①授業公開の様子

2年生 題材名 「歌詞と音楽との関わり」
 授業者 大淵 恭子 教諭(千歳市立勇舞中学校)
 共同研究者 高瀬 啓華 教諭(千歳市立富丘中学校)
 本時の目標 ・自分の声域や特徴を知り, より良く表現するために自分にあったキーを探すことができる。

本時の様子

	生徒の学習内容	教師の支援	評価の観点	共通事項
導入 10分	<p>【3分前学習】 既習曲を合唱する。 「浜辺の歌」を前日に学習した二部形式を意識して斉唱する。</p>			
	<p>形式やテンポを工夫して、楽しいアンサンブルを発表しよう</p>			
把握 見直し 追究 結果・表現 30分	<p>全員で E♭ F G A♭ A の5つのキーで「浜辺の歌」を斉唱する。</p> <p>5か所にキーボードを置き、E♭ F G♭ A♭ Aで伴奏を録音しておき、そこに集まって歌ってみる。</p> <p>何か所かで複数回歌ってみて、自分に合うキーを探す。</p> <p>自分に合うとキーと思うキーボードの場所に集まりグループごとに歌って発表する。</p>	<p>歌って楽なキーが必ずしも生き生きと表現できるとは限らないことを伝える。</p> <p>二部形式を生かして表現することを意識させる。</p> <p>5か所をまわって、生徒の声を聴いて助言を行う。</p>	<p>【関心】自分に合うキーを意欲的に探している。</p> <p>【技能】自分が生き生きと表現できるキーを探することができる。</p> <p>【工夫】より良く表現するためにはどのキーが良いか考えて歌っている。</p>	<p>○強弱 ○形式 ○調</p>
振り返り 10分	<p>自分で選んだキーと選んだ理由をワークシートに記入する。 発表を聴いて気づいたことをワークシートに記入する。</p>			

②授業分科会での協議内容

(授業者から)

- ・教科書に載っている日本歌曲を積極的に歌わすことができないことが多いので、主体的に取り組ませるにはどうしたらよいかと考え、過去のレポートを参考に考えた。
- ・キーの設定に少し迷ったが、2部形式のbのメロディーを素敵に歌えることがポイントだと指導してきた。
- ・自分の声と向き合うきっかけになればよいと思ったが、これを追求するには時間は足りなかった。

(参加者から)

- ・斉唱はなかなか時間が取れない、実は楽しくないと感じている子もいる中で音域を選べるので一人一人が満足し、気持ちよく歌える授業だった。
- ・「3段目がベストになるKEY」などに注目すると創意工夫がでてくるのではないか。
- ・キーボードのテンポが速かった。ゆっくりだと更に曲の良さを感じながら情緒たっぷり歌えたのではないか。
- ・3年生に進級したときに自分の声を見極め、ベストな音域を選べるようになる良い機会になる

ことを期待したい。

③成果と課題

- ・曲の良さを感じながら歌わせるためのテンポ設定
- ・主体的な取り組みを行う中で発声、ブレス、声量、強弱などを意識した表現方法
- ・子どもたちの実態から選び自信につなげていく中で、声の響きの目標をどこにたてていくか。

(2) 専門部会第二次研究協議会での協議内容

今年度は、前半に小中合同の合唱交流会を行った。後半は、子どもが主体的に表現することに焦点をあて、歌唱、器楽、創作の様々な領域の指導法についてレポート発表と、おすすめ教材の紹介を行った。レポート発表もおすすめ教材の紹介も今後の授業実践の中ですぐに取り入れられる内容のものが多く、有意義な学習会となった。

小学校

	市町村	交流内容
教材紹介	北広島	OMO I Y A R I のうた ほか
レポート発表	江別	6年生「豊かな表現を求めて」 江別市立大麻西小学校6年 林田美和子 教諭
教材紹介	石狩	みらいスクールステーションの紹介 器楽の指揮 ほか
教材紹介	恵庭	リコーダー指導のおすすめ曲「ときめきガボット」 合唱おすすめ曲「絆」 ほか
レポート発表	当別新篠津	中学校授業研「雅楽の豊かな表現を味わいながら」

中学校

	市町村	交流内容
レポート発表	恵庭	授業研「合唱表現を楽しもう」 混声三部合唱「虹」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
レポート発表	当別新篠津	授業研「雅楽の豊かな表現を味わいながら」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
紙面交流	江別	・歌唱指導について ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流
紙面交流	石狩	授業研「混声三部合唱 大切なもの」 ・学習についての説明 ・日常の実践交流
紙面交流	北広島	授業研「曲想の変化を生かして 名づけられた葉」 ・学習の流れについての説明 ・日常の実践交流

III. 教育課程研究

1. 研究の経過

小学校においては、新教科書での2年目ということで、年間指導計画についての検証と実践を行った。

中学校においては教科書での1年目ということで、年間指導計画についての検証を行った。

2. 研究の成果・課題

新教科書になり、曲目や順序が変わっている題材などの実践を交流し、指導方法について検証することができた。中学校は、合唱コンクールや卒業式での合唱の取り組みとの兼ね合いを考え、学校事情に応じて柔軟に対応できるように指導計画等を検証することができた。次年度は、引き続き、新教科書についての実践や交流を行い、指導内容についての研究を重ねていく。

IV. 実技・理論研修会

小学校

【実技研修会】

1. 研究の内容

6月21日（火） 13:45～16:30 石狩市立花川南小学校

「ボディーパーカッションを通して主体的に表現できる力を高めよう」

講師 九州女子短期大学特任教授 山田俊之 氏

2. 研修会の成果

楽譜がよめなくてもどの子どもも主体的に表現できる「ボディーパーカッション」の指導法の工夫がわかり、山田先生に実技指導を行ってもらい、ボディーパーカッションの構成について理解することができた。

中学校

【実技研修会】

1. 研究の内容

7月14日（火） 13:30～16:30 千歳市立千歳中学校

「中学校歌唱指導について～歌唱を通して豊かな表現力を高めよう～」

合唱指導者 札幌市立手稲東中学校 三澤 真由美 教諭

2. 研修会の成果

2年生の「時の旅人」を通して、合唱指導法について学んだ。生徒たちをより前向きに合唱に取りませせる働きかけかたを学ぶことができた。後半は、歌唱指導の実技をおこなった。発声や姿勢の大切さを実際に体験しながら合唱指導のポイントなどを具体的な方法を学んだ。

V. 部会研究の成果と課題

【成果】

- ・小学校では、音の響きや音楽の構成を考える活動を通して、子どもが主体的に表現できる授業のあり方を追求し、より実践的で具体的に表現力を高める方法を学習することができた。
- ・中学校では、音楽活動の体験を通して、主体的に取り組む活動から学んだことを生かしながら音楽を生み出す場を生徒に経験させることができた。

【課題】

次年度は、「主体的に表現する」子ども像を部会の中でしっかりと定義づけて確認し、研究を進めていくことが次年度も必要である。その目指す子ども像を日常の授業にしっかりと生かしていくことができる研究が重要である。